

青春スクロール

母校群像記

骨太の個性も育つ／若き日の夢実現

平塚江南(以下、江南)からは骨太の個性も育った。法政大社会学部教授の船橋晴俊(65、1967年卒)は、原発再稼働に動く政府に対抗するため、今春発足した「原子力市民委員会」座長。東京五輪の年に入学し、開業したての新幹線で修学旅行に行った。受験戦争や社会のあり方に疑問を感じ、大学進学後、「いかに生き、社会の問題を改善できるか」を問い、公害や核燃料サイクルの問題に取り組んできた。船橋と連携し、原発被災者の

平塚江南高校 7



公的支援を研究するのが福島大教授今井照(60、72年卒)。大業のメンタルヘルス対策の会社を起こした渡部卓(57、75年卒)もいる。冒険家の植村直己に憧れ、山岳部で丹沢の沢登りに没頭。死に向き合うような吹雪や滑落も経験し「ベンチャー精神を培った」と振り返る。紛争が続くイスラエルとパレスチナの若者の交流を進める井上弘子(74、57年卒)。「女に学問はいらぬ」と言う父に隠れて勉強し、大学英文科へ進学。卒論研究で聖書と出あい、聖地巡礼の案内をするうち、紛争に

外資系企業などを経ていち早く

「職場のうつ」に注目し、企

国内のほか、武漢理工大など中国の四つの大学でも教える渡部

豆の買い付けのため、年間150日近くを海外で過ごす丸山



アルバイトで資金をため海外を放浪した後、軽井沢で喫茶店を開業。自ら世界各地の農園を巡って仕入れた豆を、高い技術で焙煎して評判を呼ぶ。今月21日には東京・西麻布に6店舗目がオープンする。

よる貧困に苦しむ子どもの支援を思い立つ。情報公開法を求める市民運動から始まった「情報公開クリアリングハウス」理事奥津茂樹(53、79年卒)は、応援団仲間とNHKの自慢で「長崎は今日も雨だった」を披露。鐘一つで笑いを取ったが、ずる休みもばれ、後に先生に絞られた。

TBS「報道特集」プロデューサー秋山浩之(51、81年卒)



情報公開の専門家として、「官官接待」「塩漬け用地」などを追及してきた奥津

は、バレーボールに打ち込みながらも、学校の管理に疑問を持つていた。乱読につぐ乱読。小田実の「何でもみてやろう」を夢中になって海辺で読み、「ここから脱出してやる」と思う日々だった。今は取材という形で海外に行き、若い日の夢を実現している。

コーヒー通に知られる「丸山珈琲」代表丸山健太郎(45、86年卒)は「早く自立したい」と教師の説得を振り切って就職。

今井の新刊「自治体とは何かー原災避難と『移動する村』」(仮題)が、14年2月、ちくま新書から発売予定。井上が理事長を務める「聖地のこどもを支える会」(東京都中野区)では、イスラエル・パレスチナの高校生を日本に招き、日本の学生と共に被災地でボランティアをするプロジェクトを実施、活動資金を募っている。詳しくはHP (<http://s.eichi-no-kodomo.org>)。